

News Letter

CONTENTS

p3 — ●チャレンジインターンシップ事業活動報告会・閉講式

p4 — ●Pick up NPO

特定非営利活動法人 広野わいわいプロジェクト

特定非営利活動法人 苧麻倶楽部

p6 — ●協働マッチング 企業アンケート

株式会社福島銀行

株式会社倉島商店

p8 — ●NPOのマナビバ

●助成金情報

村

SAPOSEN

ふくしま地域活動団体サポートセンター

2017

Vol.2

2017.12.18

NPO的教科見学

特定非営利活動法人しんせい(郡山市)



しんせい外観

しんせいは、

「Leave no one behind」!!

誰ひとり置き去りにしない

11月9日(木)午後4時から、郡山市の特定非営利活動法人しんせいで第1回の「NPO的教科見学」を行いました。この事業は、県内の先進的な活動をしているNPOを訪問し、現場で生の声を聴き、その先進的な手法を学ぶことが目的です。

しんせいでは、13の福祉事業所が協働ネットワークをつくり、障がい者の働く場を提供しています。震災後、福島の障がい者を応援する目的で、企業等から大量注文を受けることがあったそうですが、一つ一つの小さな事業所では出来ることに限りがありました。仕事がないにも関わらず、受注を断念せざるを得ないこともあったそうです。そこでしんせいでは、協働する13の事業所それぞれの得意分野を発揮してもらうことで、震災後の大量注文にも対応してきたのです。

商品開発にあたり大手企業に技術指導を求めたことや材料を使い切る・デザインの細部にまでこだわったしんせいの「プロ意識」、大手企業から復興住宅の手芸サークルまで様々なところから協力を受け入れる「受援力」に、参加者の皆さんは興味津々でした。今回は、それらの先進的な取り組みやその事業に大きく関わるSDGs※を紹介します。



室内には可愛い置物が配置され癒されます



熱心に聞き入る参加者の皆さん



※SDGs(Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)とは…

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものです。

外務省のホームページより抜粋
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html

しんせいは、
「Leave no one behind」!!



建物に隣接する園芸作業スペース。トレーラーを改良したもので、室内も木造りで温かみのある雰囲気

■扱う商品はプロ直伝!! 材料はSDGsで使い切る

はじめに、しんせい事務局長の富永美保さんから、震災後に障がい者協働プロジェクトを立ち上げ「魔法のおかし ぼるぼろん」の商品開発に至った経緯や福祉的就労の意義、SDGsをどのように取り入れているかを話して頂きました。

製菓事業の立ち上げでは、日清製粉に研修会や製菓指導を仰ぎ、12の福祉事業所で製菓・箱折り・販売等を分担、武田薬品労働組合が復興支援企業内マルシェを通じ購入を、そしてYahoo!JAPANがインターネット販売を応援しました。

また、「ミシンの学校」事業では、ブラザー工業株式会社にミシンの寄贈と講習会を支援してもらい、デニムカバンの製作に7つの福祉事業所が裁断・縫製等の工程を分担。東京・台東区にある有名な自家焙煎珈琲屋パッハも、オリジナルトートバックを定期的に注文しています。

企業からプロの技術指導を受け、複数の事業所で仕事を分担、販路も大手企業等に支えられ確立。多くの知恵を出し連携する手法は、分野の垣根を越えて見習うべき点が多くありそうです。

また、デニムカバンに使われる生地は、商品化されずに倉庫で眠っているもの・捨てられてゆくものを譲り受け、しんせいで商品化。そして、縫製等の細かい作業は、復興住宅手芸サークルの方々に手伝ってもらうなど、「受援力」も大いに発揮しています。さらに、「始末の心」の考えのもと、デニムカバンを作った際に残ってしまったハギレをティッシュケースに、ティッシュケースのハギレをカードの飾りやしおりに使用するなど徹底した仕事ぶりです。

富永さんにはこれまでに販路拡大の話もあったようですが、「機械化してしまうと障がい者の人たちの仕事が奪われてしまう。それでは意味がない」と、障がい者協働プロジェクトが取り組む目標の一つ「若者や障がい者を含むすべての人たちが働きがいのある人間らしい仕事につくことができる福島を目指す」ことを忠実に守り続けています。そして、この考え方はSDGsの目標の一つである「働きがいも経済成長も」の考え方と一致します。前述した「始末の心」も実は「つくる責任 つかう責任」というSDGsの目標と同じ考え方です。

しんせいでは、震災後の刻々と変わる状況に柔軟に対応し、様々な工夫を凝らして事業を展開、関わる全ての人々が生き生きと自信を持って働いています。

しんせいが元気だと評される理由の一因はSDGsにあるのではないのでしょうか。

■SDGs 17の目標

既に紹介しました「働きがいも経済成長も」「つくる責任 つかう責任」の他にSDGsでは、あと15計17の目標を掲げています。

17の目標

- ① 貧困をなくそう
- ② 飢餓をゼロに
- ③ すべての人に健康と福祉を
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ⑧ 働きがいも経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ つくる責任 つかう責任
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ 海の豊かさを守ろう
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう
- ⑯ 平和と公正をすべての人に
- ⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう



センス良く
陳列された商品



しんせいの活動を
紹介する富永さん

■しんせいとSDGs

続いて、一般社団法人SDGs市民社会ネットワークSDGs事業プロデューサーの新田英理子さんがSDGsの日本での取り組み等を説明。最後に同法人代表理事の黒田かをりさんがしんせいについて常々感じていることをSDGsに関連させて話してくれました。「寄付」ではなく「技術」を求めたことやハギレを使い切ることを振り返り、「プロ意識」の高さを改めて認め、また、以前に富永さんが話した中から印象に残っていることとして「仕事のためでなく人々のために仕事をする」という言葉を紹介。「しんせいはSDGsの要素をわかりやすく体現しているように思います。そして、日々小さな革新を起こしています」と締めくくりました。



プログラム終了後
には交流の場も

特定非営利活動法人しんせい

〒963-8022 福島県郡山市西ノ内1丁目25-2

[TEL/FAX] 024-983-8138 [Mail] salon.shinsei@sky.plala.or.jp

[Web] <http://fkp13.jp/project> <http://shinsei28.org>

しんせいを訪れて

障がい者の皆さんが避難先でより良く住み続けることが出来るようにとの思いから、SDGsの大切な理念である「Leave no one behind (誰ひとり置き去りにしない)」を掲げ、居場所と出番を提供し続けているしんせいは、全ての人が活躍できる場所でした。

しんせいを訪問し、まずはその可愛いセンスの良い建物・内装に驚かされます。商品の陳列や飾り付けにもセンスが感じられ居心地が良く、また訪れたいと思わせる雰囲気です。「居場所と出番」を提供しているしんせい、居場所の雰囲気づくりにも手を抜くことなく、まさにここでも「プロ意識」の高さを感じました。

SDGsの認知度は残念ながら一般的にはまだまだ低いように感じますが、SDGsもしんせいもこれからは目が離せません。

NPO × 若者
= 復興!!

NPO強化を通じた若者定着・地域活性化事業 チャレンジインターンシップ 活動報告会・閉講式



福島の未来は
僕らがつくるぞ
オーツ!



福島の未来は 僕らがつくる!



平成29年度NPO強化を通じた若者定着・地域活性化事業
「チャレンジインターンシップ事業」活動報告会・閉講式開催

11月4日(土)、ビッグパレットふくしまにてチャレンジインターンシップ活動報告会・閉講式を開催しました。今年度は、47名の高校生・大学生・専門学生が、夏休み期間中の1週間程度、福島県内の復興支援活動に取り組むNPO法人でインターン活動を行いました。

参加した学生のみなさんは、東日本大震災当時小・中学生だった年代。活動取材へ伺った際「震災がおきた時は何もできなかったけれど、今ならできることがあるのではないかとインターンシップへ参加しました」と話す方が多かったのが印象的でした。活動報告会では、活動中に撮影した“インターンシップが終わる頃どんな自分になっていたか”を話している姿や実際に活動している様子を一人ひとり動画で紹介しました。また、その上映を受けて、生の声で“なりたい自分になれたか”や“未来はどんなふうになっていたか”を話していただきました。

「地域に密着した復興活動をすることにとってもやりがいを感じたので将来はこのような仕事にたずさわりたい」「福島に住んでいる方が幸せになるような企業を立ち上げたい」など、未来の福島を担ってくれるであろう頼もしい言葉を聞くことができました。インターンを受け入れてくださったNPOの方々の熱い想いは確実に学生のみなさんに伝わっていると感じた報告会でした。

コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ
コカ・コーラ イーストジャパン(株)より
記念品贈呈



共催のコカ・コーラ ボトラーズ
ジャパングループ コカ・コーラ
イーストジャパン(株)の制作協力で
活動の様子を動画で紹介



チャレンジインターンシップ
ウェブサイトに活動のようすを
掲載中です。
<https://f-intern.f-saposen.jp/>



福島県文化振興課長より
修了書授与

チャレンジ インターンシップ 動画



活動のようすは、こちら



地域に根ざし、様々な社会的課題を解決するために元気に活動している NPO 法人をご紹介します

特定非営利活動法人

広野わいわいプロジェクト

広野町

にぎわい・なりわいづくりで、人が住みやすい笑顔の生まれる町へ!!



磯辺 吉彦 事務局長

特定非営利活動法人広野わいわいプロジェクトは、子育て世代の帰還が少なく、離農がすすんだために町が失いつつあるにぎわい・なりわいを創出したいとの思いで平成28年4月に設立された団体です。団体名は、にぎわい・なりわいに由来してつけられました。

震災後広野町は全町民の5500人が一時避難をしました。平成28年9月の避難解除当初2200人ほどだった人口も、1年経った現在では4000人まで増えましたが、震災前の人口にはまだ足りない状況です。そのため団体として広野町のマンパワー不足を補い、その窓口となり町に活力を生み出す仕組みづくりを行政と協力しながら、積極的に行っています。



今年もたくさん収穫できました

それにともない団体の活動は、交流促進・にぎわいづくり・仕事づくりなど多方面にわたっています。

広野町は津波の被害もあったため一部では塩害のある土地もあり、多くの耕作放棄地がうまれました。

その耕作放棄地を活用するため、塩害に強いオーガニックコットンの栽培、ひろの防災緑地の森づくりや笑顔サンサン農園の運営をしています。

大手企業も防災緑地の植樹、コットン畑の除草作業や収穫などのボランティアで参加しています。

このような活動は地元の方やそれ以外の方々との交流促進となり、広野町のファンを増やしています。笑顔サンサン農園で栽培した野菜は、地域イベントで販売したり、県外の方がいらした際に食材として提供したりしています。

にぎわいづくりでは、「広野町に伝統的なイベントを作りたい」との思いから、自団体で企画運営し、地元の子どもからお年寄りまで楽しく参加しやすいイベントを広野町のニッ沼総合公園を会場に「ひろのパークフェス」として年3回行っています。



町民農園から笑顔とおいしさを届けます

その中で、福島県発祥の「水風戦」を広野大会としてとりいれたり、広野町出身のミュージシャンのステージなど地域らしさを多く取り入れたイベントを開催しています。

仕事づくりでは広野町の農産物を使ったお菓子やキャンドルなどの特産品を開発し、地域資源を生かすことも行っています。

夢は「地域にアイデアを提供できる団体になること」と事務局長の磯辺さんはおっしゃいます。

笑顔あふれる広野町へ、にぎわい・なりわいを生み出す団体の活動は続いています。



特定非営利活動法人 芋麻倶楽部

大沼郡昭和村



昭和村から持続可能な地域づくり・人づくりを目指して!!



村の暮らし体験

特定非営利活動法人芋麻倶楽部は、全国でも珍しいカラムシの栽培・生産をおこなっている昭和村でNPO法人格をもつ唯一の団体です。団体名はカラムシをチョマとよんでいたことに由来して、村長が名付けました。

活動は団体設立より1年前の平成19年より地域課題解決・田舎暮らし体験住宅の管理の目的で、昭和村役場が中心となり始まりました。

平成21年に開催された「昭和村、みんなが主役・誰もが主役の村づくり会議」のアンケート調査結果から、都市農村交流での交流人口の増加、住みやすい村づくりの実践、地域産業振興による雇用の創出が必要とされていることがわかりました。村の急速な高齢化、過疎化の問題は農業後継者不足、耕作放棄地の増加を生みだしています。中でも、高齢化は福島県内で2番目に高く、平成29年3月現在の高齢化率は56.2%となっています。「自分たちの望む地域の姿を話し合い積極的に地域を守っていく集落をめざす」と事務局マネージャーの和泉さんは笑顔で話されます。

団体の活動として、昭和村全体を「学びの場(キャンパス)」として、大学生を多く地域に呼び込み古くから伝わる日本の知恵、自然と共存する生き方などを学ぶ「ムラキャンパス事業」。一宿一飯の提供への御礼をするホームステイ型のワークキャンプ(ボランティア)の「ふるさとワークキャンプ事業」。企業ボランティアを誘致する「農都交流事業」など伝統的な昭和村の暮らしを維持したまま、多くの魅力を引き出し伝える活動をしています。

「昭和村を元気にしたい!!」との趣旨で人と人を結びつけ、村の人が笑顔になる仕組みづくりを今後も展開していきます。



芋麻倶楽部の
手作り看板



村の暮らしを考えるワークショップ

NPO × 企業 = 社会課題の解決へ

協働マッチング 企業アンケート

前回のニュースレターでは、既に協働を実施している3つの事例を紹介しました。また、10月から始めました「NPOと企業等のマッチング事業」では、福島・会津・いわきの3会場でアプローチ講座・プレゼン講座を開催、11月下旬から12月初めにかけて企業との協働マッチング会を行いました。

また、NPOとの協働に関心を示した県内の企業を訪問し、NPOに期待することを伺いました。今回は、その中から2社を紹介します。

株式会社福島銀行



こども向け
ワークショップの様子

株式会社福島銀行は、地域や環境、こども向けワークショップの開催、障がい者支援、助成金など多岐に渡っての社会貢献活動を行っています。

また、春・夏・秋・冬に実施している「10大イベント」は固定客がつくほど好評です。このイベントは、福島の魅力・地元の隠れた魅力を再発見することを目的としていますので、同行経営企画課長兼地域貢献室長の井上大樹さんは、地域に密着して活動しているNPOと協力して開催できるのではと、イベントをより多様性のあるものにするための協働の可能性をお話されていました。また、同課の清野愛さんも「ユニークなアイデアを出して頂ければ」と期待します。同イベント・冬の開催案は既に決まりましたので、もしかすると春の企画以降にNPOとの協働が可能となるかもしれません。

井上室長は他にも、同行で既に行っているクラウドファンディングや銀行ならではのネットワークの強みなど

よりユニークに・より多様性のあるものへ

を生かしてNPOと協力できないか、と積極的なアイデアを出して下さいました。ネットワークを活かすという点では、点字の名刺を作っているNPOを印刷会社が営業の面で支援するという他県の事例を紹介し、同行で既に行っている「ビジネスマッチング」のNPO版を提案して頂きました。

同行はこれまでにNPOへの助成やセミナーへの協力等を行ってきましたが、更に進展した「協働」が実現することを期待します。

協働の可能性を前向きに
話す井上室長(右)と
清野さん(左)



【株式会社福島銀行】

〒960-8033 福島県福島市万世町2-5

TEL:024-525-2525

地域貢献活動のページ

<http://www.fukushimabank.co.jp/koken/index.html>

株式会社倉島商店

職場体験・見学の様子

できます。

また、同社では毎年秋に「ありがとう感謝祭」を開催しており、昨年に引き続き今年もバザー収益金を「特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会」の趣旨に賛同し同法人へ寄付、さらにパネルやパンフレットを置いたブースを設けました。



大盛況の「ありがとう感謝祭」

これまでの活動は多種多様 共通点は見つかるはず

株式会社倉島商店は、石油・建材・携帯通信・保険・リース・情報処理事業等を展開する総合卸小売業者で地域の人々の暮らしを支えています。

今回、NPOとの協働事業に興味を抱いた理由を同社経営企画部の佐藤龍也部長と安齋恵さんに伺いました。

同社は、社会貢献活動として環境美化活動や学生の職場体験、県北卓球協会への協賛等を行ってきましたが、新たな活動として何ができるのかを模索中で、佐藤部長としては今後、国内で災害等が起こった際には社員をボランティア等で派遣し、様々な経験をしてもらいたいとの思いがあるようです。しかしながら、現在は人員面等の体制が整わず、実際に現地へ赴いて活動するのが難しい状況です。

そのような状況ですが、例えば新人社員研修として一定期間地元のNPOにインターンとして社員を派遣し、社会的課題の解決に直面させることで、社員自身の経験値を上げるということも「協働」という視点から考えることが



自社の取り組みを笑顔で 話す佐藤部長(右)と安齋さん(左)

こちらの感謝祭やイベントでNPOのPRブースを設置して頂く等、まずは繋がれるところから協働の可能性を広げていけそうです。

【株式会社倉島商店】

〒960-0113 福島県福島市北矢野目字原田67番地の20

TEL:024-552-2111 FAX:024-552-2264

地域・社会貢献活動のページ

http://www.kurashima.co.jp/?page_id=2440

「NPOと企業等のマッチング事業」で NPOと企業との絆を創る

今年度のふくしま地域活動団体サポートセンター事業のひとつとして、11月28日(火)会津若松市稽古堂、29日(水)福島市民活動サポートセンター、12月1日(金)いわき市産業創造館にて「NPOと企業等のマッチング事業」の「協働マッチング会」が行われ、事前のアンケート調査によりNPO13団体、地元企業12社に参加いただきました。参加したNPOの皆さんは事前に実施した「NPOアプローチ講座」で自分たちのやりたいことを簡潔明瞭にまとめ上げ、「NPOプレゼン講座」でそれを基にいかに相手にわかりやすく伝えるかという手法を学んでから、本番であるこの地元企業との「マッチング会」に臨みました。この「NPOと企業等のマッチング事業」を通して、NPOの皆さんは自分たちの活動の再確認と新たな発信力を身につけ成長し、企業の皆さんはNPOの日頃の活動への理解をさらに



深められたと思います。ふくしま地域活動団体サポートセンターでは、今後もNPOと企業との「協働」による活動を推進し、地域の社会的課題の解決に向けて、様々なサポートを続けていきます。

NPOのマナビバ

来年1月に実施する
講座のご案内です。



詳細は、サポセンのHP(<https://f-saposen.jp/>)をご覧ください。

～NPOをシッカリ運営し、キチンと報告するための～組織運営と事業報告

- 日時** 平成30年1月19日(金) 13:30 ～ 15:30
会場 ミューカルがくと館 中ホール(郡山市)
講師 ①齋藤 和人 氏 特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル 代表理事
②福島県文化振興課 NPO担当者

NPOの運営で気をつけるべきこと
や守るべきルール、事業内容等
の変更にもなう手続きの方法、事
業報告書を作成するにあたっての
注意点などを学びます。

助成金情報

チャレンジして
みよう!

NPO関連の助成金情報については
当センターのホームページをご覧ください。
【URL】<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇環境の保全

アウトドア環境保護基金(後期)【支援元/コンサベーション・アライアンス・ジャパン】

- 対象事業/ (1)自然が残された特定の土地や水域を、野生生物の生息地、またはアウトドア・レクリエーションの機会を確保するために保全することを目的としているプロジェクト
(2)保全への取り組みを支援する草の根の市民による運動と連動しているキャンペーン
- 申込期間/ 平成29年8月16日(水)～平成30年2月15日(木) ●上限金額/ 1件あたり50万円
- 参考URL / <http://ca-j.org/grants.html>

◇保健・医療又は福祉の増進、災害救援

障害者市民防災活動助成【支援元/特定非営利活動法人ゆめ風基金】

- 対象事業/ 大規模な自然災害が起きたときに、少しでも障害者市民が受ける被害を小さくするため、各地で取り組まれる障害者市民防災・減災活動
- 申込期間/ 随時(ただし申請は事業実施3ヵ月以上前に) ●上限金額/ 1事業につき1回10万円
- 参考URL / <http://yumekaze.in.coocan.jp/fund/fund.html>

◇環境の保全、人権の擁護又は平和の活動の推進、国際協力など

大竹財団助成金【支援元/一般財団法人竹財団】

- 助成対象/ 公益、社会問題の解決に取り組む事業を行い、日本国内に事務所や連絡先をもつNPO、任意の市民団体、ボランティアグループ、個人
- 申込期間/ 随時(ただし申請は事業開始1ヵ月以上前に) ●上限金額/ 1件あたり50万円
- 参考URL / <http://www.ohdake-foundation.org/index.php/grant.html>

◇保健・医療又は福祉の増進、まちづくりの推進

第7回(活動)杉浦地域医療振興助成【支援元/公益財団法人杉浦記念財団】

- 対象事業/ 医師、薬剤師、看護師等の医療従事者及び介護福祉従事者等の多職種が連携して、「地域包括ケア」「健康寿命の延伸」を実現しようとする活動
- 募集期間/ 平成30年1月1日(月)～2月28日(水)
- 上限金額/ 1件あたりの上限額50万円(総額500万円)
- 参考URL / http://sugi-zaidan.jp/assist_decoration/boshuyoko.html

◇学術・文化・芸術又はスポーツの振興

2021芸術・文化による社会創造ファンド(2021Arts Fund)【支援元/公益社団法人企業メセナ協議会】

- 対象事業/ 芸術文化振興に資する活動、および芸術・文化による社会創造に寄与する活動
- 募集時期/ 申請受付は年4回(1月20日 | 4月20日 | 7月20日 | 10月20日) ●上限金額/ なし
- 参考URL / <https://culfun.mecenat.or.jp/collect/2021artsfund/point.html>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託: 福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課

運営受託: 認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

◆県内の認証 NPO 法人団体 / 919 団体

◆特例認定 NPO 法人団体 / 2 団体

◆認定 NPO 法人団体 / 20 団体

平成 29 年 10 月 31 日現在

編集後記

NPOと企業等のマッチング事業、更にながります!!【後藤】

寒くなりましたね。風邪などひきませんように!!【野地】

冬はやっぱりこたつでミカンですね【櫻井】

協働、今後たくさんの良縁が結ばれますように【青柳】

歩くことは生きる基本。ウォークビズを実践しています。【渡部】

冬こそ体を動かします!!【河野】